外来

看護師長　濵村　早代　上本　朱美

1．病棟の具体的な目標と評価

【診療科ブース】

1）安全で質の高い看護を提供する
BLS 研修に看護師・看護補助者 4 名参加できた。また外来の事例をもとに倫理課題をまとめた。

2）病院経営に参画する
インカム導入で各部署の状況を共有でき、ブース・センター関係なく補完できるようになった。採血待ち時間の短縮、超過勤務削減の効果はみられた。

3）患者の視点に立った医療安全を推進する
エスカレーターでの転倒防止の取り組みを、外来に関わる多部門と協働し行った。減少には至らなかったが、表示方法の変更、他部門による見守りが強化され、患者の行動も変化がみられた。

4）専門職としての能力開発に努める
国立病院看護研究学会学術集会発表 1 名、脆弱性骨折マネージャー合格 1 名、排尿自立研修終了 1 名、PEACE 研修、耳鼻科検査研修に各 1 名参加した。ラダーⅡ暫定 2 名、Ⅴ1 名が認定された。

5）看護の先輩として学生指導に携わる
外来で行う処置や計測に入るタイミングがわかるようにホワイトボードに項目を書き、可視化した。

6）活気のある職場、元気の出る職場づくりを推進する
ブースを超えて補完できるスタッフが増え、PNS®パートナーシップマインドの他者評価は〇が前期 93%、後期 91.5%となった。

【処置センター・化学療法センター・内視鏡センター】

1）安全で質の高い看護を提供する
放射線造影検査介助を 2 名育成した。内視鏡は昇任する副看護師長への研修を計画的に実施した。ラダーレベルⅣを目指す看護師を中心にして倫理カンファレンスを開催し、自身の看護を振り返る機会となった。

2）病院経営に参画する
外来腫瘍化学療法診療料1を 2708 件算定できた。またインカムを活用し、処置や受付対応、患者急変等の急な応援要請・対応が迅速に行え、休憩時間未取得ゼロを継続することができ効率的に外来運営が実施できた。

3）患者の視点に立った医療安全を推進する
処置センターで採血後に気分不良となり転倒した事例があり、採血後の観察、注意喚起の強化を行っている。転倒リスクのある患者、家族に車いす使用、エレベーター利用を継続して促している。

4）専門職としての能力開発に努める
ラダーレベルⅡ1名、Ⅲ2名、Ⅳ3名、クリニカルコーチに1名が認定された。個々の目指すキャリアを確認し、研修受講できるよう調整をしている。

5）活気のある職場・元気の出る職場づくりの推進
PNS®マインド醸成のための勉強会を実施し、その後の自己評価、他者評価共に〇が90%以上の評価となった。年次休暇取得は平均 16.3 日となっている。

2．外来統計

表 1　外来患者数

	延べ患者数(人)	1日平均患者数（人）	1 日平均点数	初診率（%）
令和 4 年度	176,742	727.3	3735.3	12.5
令和 5 年度	173,653	714.6	3502.0	12.3
令和 6 年度	176,373	725.8	3494.2	13.4

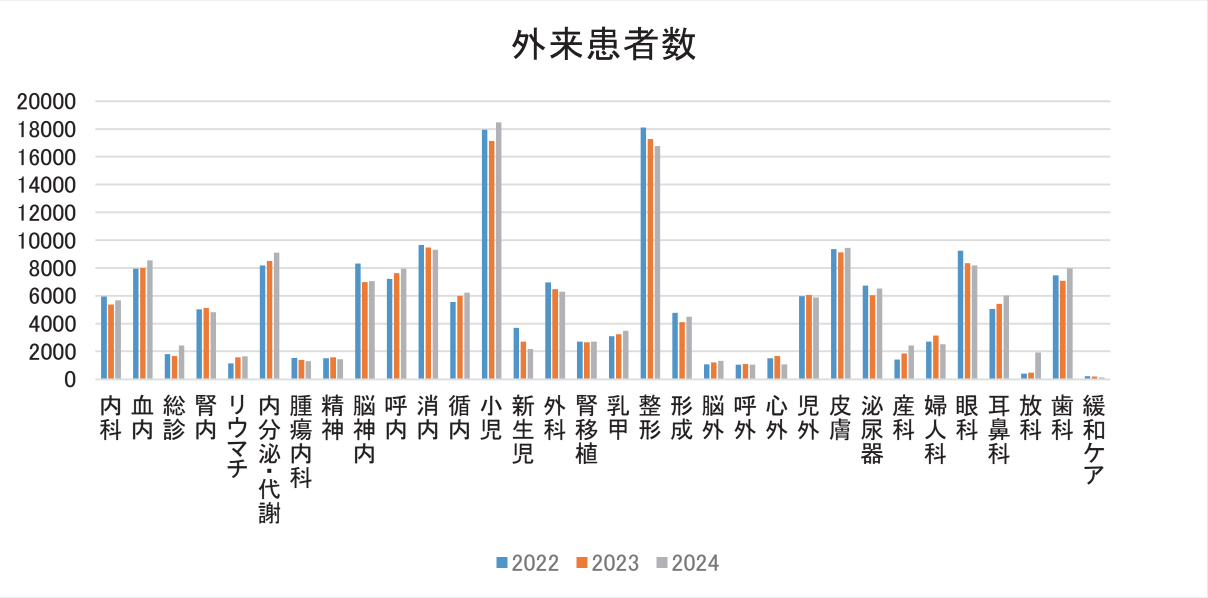

表 2　内視鏡件数等

	上部内視鏡	下部内視鏡	気管支鏡	ERCP	EIS	カプセル内視鏡	ダブルバルーン
令和 4 年度	2591	1304	308	235	6	38	17
令和 5 年度	2807	1513	336	269	5	28	20
令和 6 年度	2751	1600	426	321	12	22	29

表 3　外来手術件数

整形外科	形成外科	眼科	外科 乳腺甲状腺外科	皮膚科	泌尿器科
71	106	314	69	129	2

表 4　診療科別外来化学療法件数

	血内	呼内	消内	乳・甲	泌尿器	腫瘍内	耳鼻咽喉	婦人	腎内	整形	皮膚	小児	脳神経系	リウマチ
令和 4 年度	1748	565	1370	273	216	38	144	6	3	0	7	0	0	37
令和 5 年度	1905	491	1320	277	195	81	146	8	1	25	30	9	17	34
令和 6 年度	2161	533	1005	379	309	91	120	6	1	28	48	13	10	30

3. 看護統計

表 5　外来排尿自立指導管理料

	指導実施患者数	指導加算料 （点数 200 点）
令和 4 年度	336	67,200
令和 5 年度	287	57,400
令和 6 年度	268	53,600

表 6 二次性骨折予防継続管理料 3

	指導実施患者数	指導加算料 （点数 500 点）
令和 5 年度	308	154,000
令和 6 年度	323	161,500